

角膜壊すたんぱく質抑制

角膜が破壊されることによる失明の予防にマウスの実験で成功したと、京都府立医大の木下茂教授と同志社大の中村隆宏准教授らのグループが発表した。角膜の透明な細胞を壊すたんぱく質を特定し、化合物で働きを抑えることができたという。10日の米医学誌ジャーナル・オブ・クリニカル・インベストイゲーション電子版に論文が掲載される。

同志社大と
京都府立医大

失明予防マウスで成功

黒目を覆う角膜は、異物が目の細胞は黒目と白目の境界にあに飛び込んで大きく傷付いたりする幹細胞が作る。グループはこ薬の副作用で組織が破壊されたの幹細胞だけで働く遺伝子を見りすると治療が難しい炎症を起す。つけ機能を調べた。

こして白濁し、失明する。角膜

遺伝子を壊したマウスの角膜

を観察すると生後半年頃から激しい炎症が起き、やがて失明した。解析の結果、この遺伝子が作るたんぱく質がないと、炎症を引き起こす別のたんぱく質「STAT3」の働きが活発になることがわかった。

マウスの失明はこのたんぱく質の働きが強まったことで軽い炎症が進行した結果とみられ、STAT3の働きを抑える化合物の点眼を続けると、失明を防ぐことができたという。